

2018年度 応用マクロ経済学 2 a 宿題

専修大学経済学部（担当：奴田原健悟）

注意事項（必ず読むこと）

1. 成績は試験のみを用いて判断するため、宿題の提出は不要である。ただし、この宿題も試験範囲とするため、試験前に問題に目を通しておくことを強く勧める。
2. 宿題の問題に関する質問は、オフィスアワー（火曜昼休み@ 8416 研究室）、授業の前後、およびメールで受け付ける。また、問題に関して訂正がある場合は、コースのウェブサイトで連絡するので適宜参照すること。
(ウェブサイト) <http://www.kengonutahara.com/teaching/>



問題 1：教科書の問題

教科書（N.G. マンキュー『マンキューマクロ II・応用篇（第 3 版）』東洋経済新報社）にある以下の問題を解答しなさい

1. 第 3 章の復習問題 1, 3
2. 第 4 章の復習問題 4, 5
3. 第 5 章の復習問題 1, 5, 6
4. 第 7 章の応用問題 1 a, 1 b, 2

問題 2：小問

1. マクロ経済学で「長期」と「短期」では、何の仮定が異なるか？また、AD-AS モデルで考えると、この仮定の違いはグラフ上の何の違いとして表されるか。
2. ケインジアン・クロスモデルを考える。消費関数が $C = 0.4(Y - T) + 400$ と書けるとき、政府購入乗数および租税乗数はいくつになるか。但し、 Y は所得、 T は税金を表す。
3. ケインジアン・クロスモデルによれば、同じ額であれば減税するよりも政府購入を増加させたほうが GDP をより多く増加させることができる。しかし、現実には政府購入を増加させる政策よりも、減税政策のほうが採用されることが多い。これは何が原因と考えられるか？
4. 投資のグラフでは、縦軸に実質利子率をとる。これはなぜか説明せよ。
5. 貨幣市場の需要曲線・供給曲線のグラフでは、縦軸に利子率をとる。これはなぜか説明せよ。
6. 貨幣需要の利子弾力性とは何か。貨幣需要の利子弾力性が大きくなると、IS-LM モデルにおいて金融政策や財政政策が所得に与える効果はどうなるか。

問題 3：経済政策の効果

1. ケインジアンクロスモデルを考える。このとき、政府購入増加は、所得・消費・投資にそれぞれどのような影響を与えるか（増加するか、減少するか、不変かを答える）
2. ケインジアンクロスモデルを考える。このとき、減税は、所得・消費・投資にそれぞれどのような影響を与えるか（増加するか、減少するか、不変かを答える）
3. ケインジアンクロスモデルを考える。このとき、金融緩和は、所得・消費・投資にそれぞれどのような影響を与えるか（増加するか、減少するか、不変かを答える）
4. IS-LM モデルを考える。このとき、政府購入増加は、所得・消費・投資にそれぞれどのような影響を与えるか（増加するか、減少するか、不変かを答える）
5. IS-LM モデルを考える。このとき、減税は、所得・消費・投資にそれぞれどのような影響を与えるか（増加するか、減少するか、不変かを答える）
6. IS-LM モデルを考える。このとき、金融緩和は、所得・消費・投資にそれぞれどのような影響を与えるか（増加するか、減少するか、不変かを答える）

問題 4：経済政策に関するトピック

- (a) 積極的な経済政策を行う際の問題点について説明せよ。
- (b) 現代のマクロ経済学者の多くは、ルールによる経済政策のほうが裁量的な経済政策よりも望ましいと考えている。裁量的な経済政策にともなう問題点について説明せよ。

問題 5 : 消費

厚生労働省の「毎月勤労統計」によると 2011 年の夏のボーナス（事業調査産業計・事業所規模 5 人以上）の一人当たり平均支給額は 364,254 円（前年比-0.8%）で、2 年ぶりに減少に転じた。これは 2011 年 3 月の東日本大震災の影響が大きいと思われる。

また、東京大学の澤田康幸教授らの実証研究によると、「地震などの自然災害は短期的には国民所得を悪化させるが、長期的には国民所得にほとんど影響がない」ことが分かっている。

以上を踏まえて以下の問いに答えよ。但し、それぞれの場合に消費が何に依存して決まるかを踏まえた解答（文章）を書くこと。

1. ケインズ型消費関数にもとづいて考えると、2011 年の夏のボーナス支給時の消費は前年同期と比べてどうなると考えられるか。
2. 恒常所得仮説にもとづいて考えると、2011 年の夏のボーナス支給時の消費は前年同期と比べてどうなると考えられるか。